

衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会ニュース

平成 26. 4. 8 第 186 回国会第 3 号

4 月 8 日（火）、第 3 回の委員会が開かれました。

1 科学技術、イノベーション推進の総合的な対策に関する件

・山本國務大臣（科学技術政策、宇宙政策及び情報通信技術（IT）政策担当）、後藤田内閣府副大臣、岡田内閣府副大臣、櫻田文部科学副大臣、上野文部科学大臣政務官及び政府参考人並びに参考人に対し質疑を行いました。

（参考人）独立行政法人宇宙航空研究開発機構理事長 奥村直樹君
独立行政法人理化学研究所理事長 野依良治君

（質疑者及び主な質疑内容）

神田憲次君（自民）

- ・戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）における航空機産業の位置付けはどのようになっているのか説明されたい。また、SIPの実施及び航空機産業の振興に向けた大臣の意気込みを伺いたい。
- ・独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）における航空機産業への取組及び我が国の航空機産業が国際的に優位となっている技術は何か、奥村理事長に伺いたい。

前田一男君（自民）

- ・STAP細胞論文の不正問題を巡る現在の理化学研究所を取り巻く状況について、文部科学省の所見を伺いたい。
- ・将来的な脱原発に向かうため、国家プロジェクトとして代替エネルギーの開発を進めていく決意を、経済産業省に伺いたい。

奥水恵一君（公明）

- ・SIPと革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）のテーマの設定、責任者の選任、予算配分及び評価等における考え方や総合科学技術会議の関わり方について伺いたい。
- ・「パーソナルデータの利活用に関する制度見直し方針（平成25年12月20日IT戦略本部決定）」に関し、現在の検討状況、今後のスケジュール及び利活用促進に向けた取組を伺いたい。
- ・技術開発の成果を活用するシステムの総体を世界に売り出すとともに、関連産業を日本に根付かせて経済成長につなげることに、大臣の意向を伺いたい。

小川淳也君（民主）

- ・STAP細胞論文問題に関し、理化学研究所の野依理事長に、研究者かつ管理者としての認識と、自らの責任において検証を進める決意を伺いたい。
- ・科学的根拠の不明な効能を謳う商品が販売されていることについて、科学技術政策担当大臣と消費者担当副大臣それぞれの認識と、今後の対応を伺いたい。
- ・山本大臣が担う様々な司令塔機能を支える内閣府の体制強化について、組織改革の必要性を含めて大臣の見解を伺いたい。

福田昭夫君（民主）

- ・水素エネルギーを原子力発電に替わりうるものとしてエネルギー基本計画に反映させるべきと考えるが、経済産業省の見解を伺いたい。
- ・現在、権限縮小等を内容とする法案の提出に向けた作業が進められている原子力委員会は廃止してもよいのではないかと考えるが、大臣の見解を伺いたい。
- ・総合科学技術会議による科学技術予算の主導の方法と、SIPやImPACTにおいてプログラムを管理するリーダーの重要性について、大臣に伺いたい。

鈴木義弘君（維新）

- ・我が国の技術者教育がボローニャ宣言やワシントン協定のような同質性の保証を取り入れたシステムになっているか、上野文部科学大臣政務官に伺いたい。
- ・教育界と産業界の価値観をすり合せなければならないと考えるが、上野文部科学大臣政務官の見解を伺いたい。
- ・優れた研究者・技術者を輩出するための大学の変革について、科研費や運営費交付金によりインセンティブを付与することに対する大臣の見解を伺いたい。

高橋みほ君（維新）

- ・平成25年度末で期限が終了したFIRSTプログラムの研究プロジェクトに対する今後の財政的支援の方針について伺いたい。
- ・FIRSTプログラム及びNEXTプログラムにおける研究不正行為の有無について伺いたい。
- ・FIRSTプログラムの選定から漏れた有望な研究者及び研究課題に対する取組を伺いたい。

伊東信久君（維新）

- ・科学技術予算額の推移について、特に第1期科学技術基本計画開始当初の1996年と本年の比較を伺いたい。
- ・科学技術予算の額が、基本計画で定める目標額に到達しない理由を伺いたい。
- ・不得手なマスコミ対策など研究以外のことについて、科学者を適切にフォローすることが必要だと思うが、大臣の見解を伺いたい。

柏倉祐司君（みんな）

- ・エボラ出血熱や炭疽菌テロ対策となる研究を行うためのBSL-4施設を我が国においても整備する必要性について、厚生労働省に伺いたい。
- ・我が国が今後行う予定の脳科学研究の概要及び予算について、欧米と比較する観点から文部科学省に伺いたい。
- ・ストックスの研究分類における根本原理と同時に実用面も追及する「パスツール型」については、米国の研究者は33%がこの型を重要と考える一方、我が国では15%との調査結果について、大臣の見解を伺いたい。

小池政就君（結い）

- ・ImPACTに関して、1件あたり30～50億円の予算が与えられるが、プロジェクトマネージャー（PM）はこれをどのように執行していくのか、また、これらの執行に当たりどのように管理していくのか、内閣府に伺いたい。
- ・ImPACTは、米国国防高等研究計画局（DARPA）の研究プロジェクトを参考としているが、最近武器輸出3原則が緩和されたことから軍事・防衛の観点も含められるべきではないのか、大臣の見解を伺いたい。
- ・SIPのプログラムディレクター（PD）になるべき政策参与の選考の在り方及びPDの活動を管理する仕組みについて、内閣府に伺いたい。

宮本岳志君（共産）

- ・ImPACTを検討する最先端研究開発支援推進会議の内容について、科学技術振興機構法改正案がすでに成立し、PMの公募の受付も終了した現在でも非公開となっている理由について伺いたい。
- ・総合科学技術会議運営規則第6条の規定通り審議の内容は原則として、すべて公開すべきと考えるが、大臣の見解を伺いたい。
- ・総合科学技術会議等の議事内容のうち非公表とされたものについては、その是非を国会がチェックできるよう運営規則を変えるべきであると考え、大臣の見解を伺いたい。

青木愛君（生活）

- ・ImPACTのPMの公募について期待通りの応募が来ているのか、またFIRSTの成果を産業化・実用化にどうつないでいくのか具体的に伺いたい。
- ・NEXTプログラムの成果の中で海水からリチウムを電力とともに取り出すという画期的な研究結果も生まれているが、NEXTプログラムに対する総括について、あわせて若手及び女性研究者への支援について伺いたい。
- ・科学技術振興機構と地方金融機関が連携して行っている中小企業への支援のような取組の推進が必要であると考え、大臣の見解を伺いたい。